

## 5.2. 入院生活 —— 「手術入院記録」(1998.9.9 - 9.18)

病名：耳下腺腫瘍(Ohrrspeicheldruese)

病院：Allgemeines Krankenhaus der Stadt Wien

病棟：15I(Hals, Nase, Ohr)、診断医：Ernberger、執刀医：Burian



### 入院までの経緯(-98/9/8)

七月末?- E気づく。

八月十七日(月)-メディカルセンターのナースに面会。

八月十八日(火)-Kagran の医者。「早い時機にホ、入院約一週間」と言われ時期選定に悩む。

八月十九日(水)-メディカルセンターのナースに報告相談。専門医紹介。

八月二十日(木)-AKH Dr.Ernberger. 明日 CT と超音波テストで再診。

八月二十一日(金)-Dr.Ernberger & Dr.Burian. 9/3 検査、9/9 入院、9/10 ホに決定。

九月三日(木)- 心電図、血液、胸X線

九月八日(火)- TMスピーチで「明日入院」。洗濯、持参品確認後馬刺しでしばしの飲み納め。

### 入院中の経緯(98/9/9-9/18)

九月九日(水)入院

- 0930 到着。三人部屋だったので個室を要求。Extra ATS685 と言うが ok す。
- 1000 個室空くまで若い医者(小間、中間)が検査、問診。鼻からスコープは始めて。"Alles klar."
- 1130 個室。東向きで、UNO も Stephansdom も見える。トイレ、シャワー付き。電話も。
- 1200 ランチの間にナース(韓国 Lee さん)が注意事項等。2200 以降飲食なし。ホに着置いて行く。連絡先を岡部にする。
- 1300 四人連れ回診。今朝の若い医者もいる。年配の女医に報告し、Alles gute で終わり。
- 1400 「読んでけ」と言われた麻酔の同意書。ドイツ語は時間かかる。岡部、Schuster,June に電話。

- 1430 麻酔担当の女医来室。手からの静脈麻酔と知る。明朝準備の錠剤を飲む。ホ° 約 3hrs.アト約 2hrs 下に残る。麻酔は 5-6hrs で覚める。明日の夕食は様子見て決める。麻酔のせいで吐き気感あるかも知れぬ。麻酔同意書持ち帰る。
- 1500 昼寝。
- 1700 June の電話で起こされる。外からの電話 ok を確認。
- 1730 夕食。パン、ハムの酢の物、おじや風スープ。まずまず。ナース体温 36.3°
- 1800 仮置きのリフ° 欲しくて一時間の外出願いで帰宅。
- 2100 ナース見回り。Alles gute. Gute Nacht.
- 2200 Ins Bett.

九月十日(木)ホ°

- 0530 起床。
- 0600 シャワー、かたむけ少々、空腹だが仕様がな。日の出待つがまだ出ない。朝靄の中に色々見える、左から Spittelau のゴミ塔、Donau Turum、UNO、四角の黒い建物、右手に Votivo Kirche、Stephansdom、Rathaus。 UNO の手前に Augarten 公園の大砲塔。正面東に見える丘はハガリー・スロバキアとの国境か。
- 0630 ナース体温 36°、ホ° 前の錠剤持参するが指示が伝わらず持ち帰る。「後で何々してから飲む」とか言っていたらしい。ホ° 着は後ろ前に着るらしい。ナースの助けで着替える。素っ裸。
- 0640 男ナース、左手にデバイス、注入、左太股筋注。ナース再度錠剤。Alles gute。朝日真ん丸、UNO の右。
- 0700 9F へ。廊下の患者もナースも Alles Gute。手術を待つらしいベッドが数台横目に入る。待つ間に空腹のせいか、錠剤のせいかうとうと。
- ??? 目覚め。別の部屋？横に何人かのベッド、記憶と配置は少し違う様だが似てもいる。左のベッドに婦人、包帯していないからホ° 前だろう、右方から少年らしい泣き声。ホ° ? 余り待たせるな、ホ° 前の不安を長引かせるのは拷問だ。
- ??? 血圧を右腕のバンドが自動測定している。ナースに時間尋ねるが無言。聞こえぬらしい。血圧の自動測定は約 20 分毎か、ぼんやりしてははっきりしない。
- ??? 数回目の BP 測定。ナースに時間尋ねる。Halb Zwei! え！一時半？じゃ、ひよっとすると？Fertig? Ja! いつの間に？喉にしびれ。麻酔？顔の包帯に気づく。そうか、終わってたのか。それで喋れてると言うことは口の中までは切っていないのかな。昨日もやたらに口の中を見るから頬ぺたが貫通するのかなと思ったよ。しかし、それなら当分口から食べ物取れそうにないし、数日で退院は考えられないから取り越し苦労だったんかな。
- 1400 病室へ戻る。
- 1430 ナース BP115/90, Normal と。ここまでガス三回、ただしきばれぬので弱々しい。
- ??? OKB から電話、「声かかっているね」と。時計なくて時間わからぬ。
- 1700 ナース点滴。耳の中で何か騒ぐ。Etwas klingt im Ohr. と言うと Das ist nicht ganz normal, aber das ist moeglich. と医者(中間?)。患部にハ° 感ずる。少し痛みも。麻酔切れ？
- 1700 ナース体温 36°、腹へらぬは麻酔か点滴か。OKB に明日おじや頼むかなと考える。Etwas klingt im Ohr. 顔色青いのかな。唾飲むと喉痛い。小水とって貰う。
- 1730 出血？医者(小間、中間)来る。出血が神経を圧迫する Complication の心配あるので再度開くと Burian 先生の指示伝達。今度は 30 分程度と言う。下で手術の準備が出来るのを待つ。交換してくれる

包帯がかなり赤い。

- 1800 OKB 来る。再<sup>h</sup>に驚いている。花持参。再<sup>h</sup> 出発前に写真撮って貰う。
- 1900 再 9F へ。OKB も 9F へ来るが扉の前まで。一旦今朝の部屋に入る。俺一人。しばらく待って反対側の<sup>h</sup> 室へ移動。連絡ミスか。こちらには何人かが入って来る。夜の<sup>h</sup> は緊急か計画外か何となく慌ただしい。今度は準備の様子がわかる。無影灯、そう言えば今朝も見たな。今朝見たものの前後関係がわからなくなった。左手甲に etwas、麻酔？太股筋注。腹胸に心電図のボタン。口のマスクは酸素用と言っていた。
- ??? 目覚め。集中室？約 10 人の患者とスタッフ。今度は間違えない。<sup>h</sup> 後だろう。無痛。時間聞くと 2110。血は止まったらしい。今夜はここで泊まると言う。右手に BP 計。15 分毎の自動測定。左手点滴。指サックは何かと尋ねる。血中酸素濃度監視の由。眠くない。気が付くと天井に時計。これなら時間がわかる。
- 2200 医者が Good night と去る。
- 2330 うるさいから部屋に戻ると言う。ここでも良いが。常時監視だし。回復順調だからかと勝手に考える。顔は歪んでいないらしい。安心。"Second is not bad."またやるか。この<sup>h</sup> 二回入れて。Humorous? Storytelling? BP130/69. U-1/4.
- 2400 目覚め後三時間。先ほどの患部<sup>h</sup> 以感なし。今度は ok か。ガス。
- 0200 病室戻る前に U-1/4、黄色、点滴はずし、心電図ボタン取って部屋へ。ナース BP100/70

九月十一日(金)

- 0500 U-1/4、黄色。まだ起きては駄目と若い医者(小間)。
- 0620 ナース Lee さん 36.5°。朝日新聞、\138/\$.
- 0630 E より電話。二度目の<sup>h</sup> を話すと(土)の便で来ると言い出し兼ねないので言及せず。OKB への E-mail にも後刻口止め。
- 0700 空腹。先生に書で礼状書くか、Burian 先生は魚のぶりにいおりか。どんな漢字だったかな。Ernberger 先生は。
- 0800 Burian 先生来室、説明。
  - \* 神経に近かった。腫瘍は 4-6cm で予想より大きかった。でも顔の神経は大丈夫 intact。
  - \* 早めに手術して良かった。一、二年先延ばししてたらリスク大きかった。
  - \* 出血が神経圧迫、2-3 週間少し残るかも知れぬ。「ウー」「ニ」と言って見ろ。Ok。
  - \* 標本病理に送った。90%は良性。今日午後包帯交換する。(14 時の予告が 17 時になる。)
- 0830 点滴。太股筋注。小間「飲食まだ」。痰で喉が詰まる。その音で目が覚める。うとうと 12 時迄。
- 1300 回診(痛み？女医)、数秒で可。U-400cc。どうしてこんなに出るのだろう。ナースは立ち上がって良いと言うが医者が明言しないしな。
- 1400 OKB 茶など持って来る。ありがたい。飲みたいが医者に確認まで我慢。明日のおじや所望。
- 1600 空腹感と点滴は関係あるのか。栄養あれば空腹感はないのか。空腹感は単にカロリー不足の信号か。
- 1630 ナース 36.74°。
- 1700 Burian 先生往診、説明。
  - \* 飲食可、特に水。昼から可だった。軟らかいものから。ヨーグルト、ミルク、茶、スープ、白パン可。
  - \* 歩いて良い。医務室に移り包帯交換、軽装。鏡で患部見る。写真も可と言うが頼める人がいない。約

10cmか。下方にプラスチック様の半月リングが飛び出している。これが抜糸のデバイスらしいが。

\* 喉のしゃがれは麻酔ではなく、ホ°時に通したチューブのせい。一週間位残るか。

\* 出血は予想外だった。アスピリン剤飲んだか。アスピリン剤が時に出血を惹起こす。

\* Tumorがsesnsivitaetに近かったので回復に少し時間かかるか。でも大丈夫。

- 1730 ok 出たので早速 OKB の茶飲む、うまい。ありがたい。後ミルク飲んだら夕食。おじや風スープ、ポテト、人参・ズッキーニ・マカロニ(?)を卵でケーキ風に綴じた様なもの、アップルジャム。肉抜きの特典メニュー指示がお盆に乗っていた。味覚異常の自覚なし。まともらしい。
- 1800 歩けるのが嬉しくて 9F へ降りる。昨日、ベッドから見た廊下の絵が GG に見えたので確認へ。違った。単なるイメージ絵らしい。が横に寝てての目線では GG に見えた。
- 1900 Everest (Chapter 7)
- 2000 かたむけ。黒、ぬるぬる。
- 2030 Ins Bett
- 2400 点滴。

九月十二日(土)

- 0700 ナース 36.6° Wunderbar!
- 0800 朝パンと紅茶のみ。持参のりんご追加。かたむけは色普通、中型人参二本。年取るとこんな不自由な生活するのかな、自由に動けない、物も持てない、痛い、いやだなあと考える。点滴具の付いた左手が痛くて不便。もう食べてるけどまだやるのかな。
- 0830 点滴。これは長かった。終わったら 11°。コルを押し Fertig! 一日三回の由。
- 1200 包帯交換。患部の写真二枚。包帯は首周りのみ。体重 57kg。昼、ポテトに豚肉とグリーンサラダ。Ohne Schweinefleisch とあるのに変だなと思いつながら半分弱食べる。
- 1700 買い物(水)、昼寝、点滴はさんで Everest(Chapter8-11)。E より電話(1620)、柏レイクル首位。
- 1800 岡部おじやと梅干し持参。うまい、有りがたい、日本人だねえ。今日で酒断ち四日、アブダビに並ぶ。明日も断つて記録更新を目指す。夕食チーズとサラダの酔の物。
- 2100 Ins Bett.
- 2230 点滴。そろそろ飽きて来た。でも左手に感謝。麻酔、栄養、殺菌とよく働いて呉れる。

九月十三日(日)

- 0530 起床。ワープロに日記入力。
- 0630 ナース体温 36°, Sehr gesund. と。ヨーグルト。かたむけ少し。人参二本少々。57kg。ゼンメルと桃。
- 0800 回診あっさり。少し痒いと言おうとしたがもういない。いいや、昼に医者に言おう。
- 0945 点滴(anti bioticum?)。太股筋注(gegen Thrombosen?)。
- 1100 点滴完。左手の痛み訴えるとデバイスはずす。腫れている。押さえると痛い。日に四回塗れとクリーム呉れる。点滴の場所別に移すらしい。ありがとうよ、左手の甲。右手になった。何とか PC 出来て安心。点滴のこと医者にきくと「バクテリアを殺すペニシリンの様なもの」との説明。Anti Biotics。
- 1300 片岡一家、白山夫妻、井上義、岡部。本の差し入れ嬉しい。OKB おじや、味噌汁、何と生うに。喉のしゃがれほぼとれる。
- 1600 かたむけ人参四本。右から点滴。BP120/80,36.5C.今日は往診なし。ナースの状況報告に「明日。Viel

Gruesse!」と Burian 先生。

- 1615 Eより電話。退院 16(水)か 17(木)か。明日 June から状況聞き、快復状況を見、通院が毎日でなくなるのを確認して決めよう。
- 1700 早々夕食、チーズとパンのみ。スーパーでサラダ買う。明朝用にパプリカも。差し入れ食べたからよし。
- 1900 Everest(Chapter12-19)、1996.5.10 遭難当日。まるで八甲田山死の彷徨。
- 2130 Ins Bett. 酒断ち五日。

九月十四日(月)

- 0630 ナース体温 36.2°。濡れタオルで顔。昨夜は小便四回、多すぎる？夜空に白い三日月。日の出 0650.
- 0700 ヨーグルト。かたむけ人参六、七本。56kg.
- 0800 Burian 先生
  - \* 瀕尿は点滴のためだろう。状況きわめて順調、点滴はそろそろ終われそう。
  - \* 包帯交換。首筋の血痕は内出血の跡。切開跡は一、二週で消える。写真一枚。伴創膏のみ。
  - \* 退院後の通院は概ね二週間後と六週間後、毎週の要なし。
  - \* 退院は(木)か(金)か。(金)かと回答。総会に備え(金)までに出社の要あるかが決め手。
- 0815 Ernberger 先生大名行列。十秒。Burian,回診の女医、中間、小間、ナース一緒。外は快晴。
- 0830 朝食：パン、紅茶、オレンジ。昨夜の買ったサラダとパプリカ。
- 0900 点滴、筋注。
- 1000 P100 初, BP130/75。同時にシート交換。初。少し遅れて別のナースが点滴デバイス取り外し。
- 1100 Everest(Chapter20-Epilogue)完。IMAX の Everest もう一度見たい。
- 1140 ランチ：Frittatensuppe, Gurkensalat, ストドルと牛肉シチュー風。そろそろ酒が恋しい。
- 1330 June 業務打ち合わせ。緊急事項なし。退院(金)か。差し入れぶどう他果物。
- 1500 OKB おじや。退院後の礼を打診したら溪流の沢歩きだと言う。五月末までに出来るか。
- 1600 T36.5C。Eより電話。左手の痛みかなり緩和。
- 2130 Ins Bett. 2230 Bett の頭と足を上げて貰う。今日 PC のやりすぎとナースがフラットにした Bett のため寝付けずやむなく援助要請。この角度が長時間睡眠でも腰痛を防いでいたのだ。

九月十五日(火)

- 0530 起床。濡れタオルで体拭く。首筋の血痕取れず。外面じゃなく内出血の跡らしい。
- 0630 T35.8C。ぶどう。かたむけ大ソフトボール程、快調。
- 0730 朝食はパンとりんご、紅茶。パプリカとみそ、刻み野菜とタルタルソース追加。56kg。
- 0800 回診行列。Burian 来室。「頭少し重い。但し、平熱。」と報告。
  - \* 頭痛は常日頃以上の睡眠ゆえか、首の不自由からか。昼まで続いたらナースに錠剤もらえ。
  - \* 患部は乾いていて良好。今日はこのまま。抜糸は(木)か。(金)朝問題なければ退院。
- 1030 P80, BP125/65, Normal。入院経過トイ語版初稿。朝の頭痛取れる。
- 1130 ランチは人参・マカロニ入り牛肉シチューとスープ。要は昼がご馳走。1245 筋注。
- 1430 OKB お結び二個、おしゃべり。1630 T35.5C。TM 次のスピーチの素材調査で図書館から二冊。Calligraphie を題材に A4(Fact Finding Report)でやりたいのだが。Marie Teresa から Area Contest で GG はどうかと打診。Humorous やるなら GG より"Second"じゃないか。ホ入れて。でもあまり乗らない。

去年出たし、元来 a man of humour ではない。

- 1830 夕食は黒パン・チーズ・パプリカ 1/4。OKB のお結びとポタージュスープ追加。酒断ち七日。
- 2000 入院記録ドイツ語版をタイプしてると夜勤のナースが話し込みに来る。ドイツ語少し喋る日本人に興味あるらしい。この記録、患者の目として面白いかも知れぬ。置いて行こうか。明日から二日間習字もやる積もり。面白がって見に来るかもね。
- 2100 E より電話。病理検査結果そろそろ聞けと。東京台風、こちら順調。2130 Ins Bett.

九月十六日(水)

- 0430 起床。下半身シャワー。パンツ手洗い。予定では今日当たり退院だったんだが。
- 0500 水でかたむけソフボール程、一部黒味。ぶどう。
- 0600 T36.2C。
- 0800 回診行列。朝食パンとバナナ。りんご、刻み野菜追加。56kg。Ernberger 先生大名行列。十秒。りんごで大口開けると違和感、あくびでも。要注意信号かな。
- 0930 習字始めたら、ナースじゃなく Praktikantin? とかが P85, BP110/65, Normal。遅れて筋注。
- 1100 習字。「謝鯨庵」身体髪膚受父母之 敢不毀傷是孝始也」。見物は配膳係と掃除の姉御のみ。
- 1200 ほうれん草煮の牛肉布団巻き、短ヌードル、青サダ、ケーキ。追加バナナ。
- 1400 June 来訪、仕事少々。Schuster さん E のはがき三通他持参。本人より緊張している。離れてりゃそんなものか。Schuster さんワインも差し入れ。
- 1600 E の希望でナース勤務環境聞き取り調査。結果は別掲。
- 1730 パン、チーズペースト、トマト小 1/2。紅茶、刻み野菜追加。酒断ち八日。
- 1830 Christian Bernard 博士の「心臓移植から 30 年」講演傍聴。英語。当時設定した実行の Criteria, recipient と donor を隣室に配置し、先ず recipient を開胸し次いで隣室で donor から心臓を摘出してとか、移植後しばらくは二つの心臓と脈動の補助具が共存して順次止めては様子を見ながら三度目で移植心臓での自力脈動を確認したとか、昨今の技術では難しくないらしい苦勞を生々しく話して呉れた。聴衆は勿論医学関係畑の医者・研究者・学生らしく技術用語の合間のエモアに笑い声も多かった。いかにも患者は一人だけ。生存期間より Quality of Life の向上が成否の尺度。最初の患者は意識快復直後「こんな快適な呼吸が出来るなんて別世界だ」と歓喜。「成功」を確信したと。他の二件のドイツ語講演はスライドしかわからず。
- 2000 講演中に左あごにひくつき感。筋肉の実際の痙攣はなさそうだが内力的張力を数秒、一・二回、そう言えば昨日もあった。有り得る病後か、明日の相談。そう言えば今日は診断なし。
- 2130 腰痛が辛い。PC 姿勢、軽体操に注意しているが治らない。ウォーキングが良いと思うのだが。寝付けず錠剤貰う。

九月十七日(木)抜糸

- 0530 起床。ソフボール。ヨーグルト。最後の今日は病状確認、今後の予定、散歩、荷造り、書、TM。
- 0600 T36.35C。W55.6kg。下半身シャワー。
- 0730 パン、小りんご、冷たい紅茶。習字で謝礼カード、窓からの風景。
- 0840 女医往診。伴創膏除去。あごのひくつきは心配するな。30 分後に抜糸。出血のため術後七日間とったが今日退院も可。やはり明日までとする。目線は悪いが縫い糸らしいの見える。首筋に正面

まで内出血の跡。

- 0930 P95, BP130/70, Normal。部局の平面図作成。
- 0945 抜糸。簡単、痛みなし。前後に写真。Burian 先生来ないと言うので女医さんに質問。
  - \* あごのひくつきは心配するな。腰痛はおそらく寝過ぎのため。
  - \* 病理解剖結果は未だ。9/3 検査結果も未だ(これはおかしい、ハ°までにわかっている筈)。
  - \* 日本用の診断書は書く。ナースステーションに預けろ。(退院時か、全完時か確認要、再来時に再依頼)
  - \* 診断書は私宛てにする。医者を選んで持って行け。
  - \* 退院後の外来日
  - \* 諸注意事項。食事はカ°イ°を避けてマイル°なもの、激しい運動は 2-3wks 控える、歩くのは可、シャワー可、但し患部に水かけるな、アフリカ・中東への旅行は 3wks 控える。
  - \* 今日の散歩外出可。ナースに届けろ。
  - \* 退院手続きは簡単、入院証明も下で。
- 1100 散歩許可で一週間振りに外の空気、あつと言う間の一時間。病室から見えた Altes AKH 方面へ 10000 歩。気持ち良い。
- 1200 チンライスとスープ、人参サラダ、ケキ。
- 1400 散歩がてら衣類等一部家へ。二時間要求したら「もう注射もないから四時間にする」とナース。
- 1600 帰院。ちらしで知って買った AKH のカードを E と自分を書く。「酒断ち遂に九日、明日は少しの酒で酔うだろう、中華で行くか、刺し身にするか」と。
- 1700 ナースステーションにお礼のカードと井上さんからの和菓子(海苔巻き煎餅)届ける。ここでも海苔を紙かと言ってはずそうとする。Dr.Burian 宛ての「謝鯰庵」は明日直接渡せと。
- 1800 パン、マッシュポテト、パプリカ 1/4、トマト 1/2。そこへ OKB 最後の見舞い。すし。有りがたかった、助かったと礼。縫い跡 10cm に驚いている。患部写真。「跡が頬っぺたなら正にやーさんだね。」
- 2000 Ins Bett. 左耳たぶ始め患部の無感覚状態続く。未だに硬く包帯でぐるぐるやられている感じ。触ると何もない。右耳は触ると指と耳の双方に触感がある。左は指のみ。耳は凍傷感覚? 時に患部に痒み。治癒途中の証拠。防具の包帯がないから無意識にかくことが心配。散歩効果が腰痛感激減。

九月十八日(金)退院、外は曇り

- 0430 起床。大ソトボール。少々の赤みは昨日の人参か。ヨーグルト、ぶどう。最後の今日は病状確認、今後の予定、荷造り、退院手続き。午後暫時出勤か。
- 0630 ナース Lee T36.0C.最初、最後がこの韓国の Lee さん。ウィーンに来て 25 年と言っていた。Alles gute. 下半身シャワー。
- 0730 パン、チーズ、紅茶、オレンジ。追加パプリカとみそ。W56.0kg.
- 0800 Praktikantin 二人来る。今日退院と言ったら「じゃバッドメーキングは後で」とか何とか。P,BP 測らないのかと腕を出したら大声で笑ってた。
- 0830 回診行列。中間曰く「Burian 先生会議で来れぬ。来週電話して相談しろ。」診断書、再来日等気懸かりを後で中間に聞くこととする。それで退院か。
- 0930 ナースに退院手続き開始の証明貰う。これを階下の事務へ持参しろと。次回来診等は来週月曜 Burian 先生に電話(40400-3348 or 3320, at 8:30am)。先生への「謝鯰庵」を託す。中間に確認。来診日は電話で。その時保険の書類持って来い。それが普通。診断結果のコピー。病理分析結果は良性。詳細な結果は

分析後文書にして送る。

- 1000 退院。手続き簡単、入院証明のみ。支払いは後日自宅へ請求書。

### 総合感想

- \* AKH で正解。インフラが良い。「日本語の通ずる医者」に拘ると X 線施設不十分の場合も有るらしい。
- \* ここは麻酔担当医も常駐する等、ソフトインフラも充実。市立の総合病院の強みか。
- \* 患者用の施設も図書館、ギャラリー、スーパー、銀行・郵便局等多彩、チャペルも幾つかの宗派用がある。
- \* 病室からの眺望にも感謝。リハビリに効果有りを見た。
- \* 部局内にヨーグルト等常備も嬉しかった。他に紅茶・コーヒー・ミルク・パン等。但し、水はガス入り。ガス抜きをスーパーで購入。
- \* 個室は 4m x 4m の寝室。カーゼット付き、他に 3m x 2m の前室。WC. Dusche. Basin、介護作業用小道具置き場が一緒の 3m x 2m の奥室..
- \* 病室は最大三床。部局当たり 28 床まで。わが部局 15I は 11 室、うち個室 1、大部屋 1。他に共通室 1。子供も預かっているので例外的に 30 床。
- \* スタッフの環境(部局 15I の場合)、ナース 15 人、4 チーム(?) 2 交代制、日勤三人組、夜勤二人組、12.5 時間勤務、忙しい(と言うが私には判断出来ない、結構茶飲んだり寛いでいる様だが。但し、勤務 12.5 時間と言うのは確かに Anstrengend だろう)。他の部局への異動は(殆ど)ない。看護夫も他部局には少しいる。若い人にナース希望は多い。AKH 付属の学校に約 300 人の学生。
- \* 他の観測。配膳係と掃除は二人の交代制。Praktikantin とかが二人、ベッドメイキングと正常患者の P・BP 測定。医者は夜を含めて常駐か見回りか不明、中間・小間はここの専属か。
- \* 少しでもドイツ語出来て大助かり、医者は英語 OK だが、ナース等とはドイツ語のお陰で細かい話が可能。

退院後経緯

九月十八日(金)退院、外は曇り

- 1000 退院。手続き簡単、入院証明のみ。支払いは後日自宅へ請求書。
- 1100 帰宅前後から腰痛再発。昨夜は単に薬効だったのか。生活再構築に買い物。
- 1500 昼食後出勤。関係者に退院一報。腰痛く集中出来ず。
- 1900 帰宅。久し振りに夕食自前、マグロ刺し身、味噌汁、漬物。十日振りワイン 400cc。昼で寝る。
- 2130 Ins Bett. 腰痛つらし、寝返り困難、しきりに目覚め。朝方少し快方。

九月十九日(土)この日記いつまで書くか。腰痛治るまでか。

- 0430 起床。大ソフトボール。55.0kg。少々減か。
- 0800 朝食、マグロ刺し身、味噌汁、漬物。腰痛快方。
- 0830 出勤。退院報告他。書類整理、月曜からの業務計画。
- 1600 腰痛対策兼ね散歩。Kahlenberg-Leopoldberg 2.5hr, 絵葉書二枚。
- 1900 鰹刺し身、味噌汁、漬物。明日は日本人会ソフトボール大会、体動かぬが参加、あと Hamid と打ち合わせ。
- 2130 Ins Bett. 依然腰痛続く。歩き過ぎか。

九月二十日(日)

- 0430 起床。大ソフトボール、次いで中。これは快調だが紙がづらい。
- 0730 今日は日本人会ソフトボール大会。腰痛残るが山用のストック持って応援に参加。
- 1230 OKB と球場横のレストランで昼食。腰痛次第に改善。もう一つの気懸かり、洗髪。患部を濡らすなどの指示を守って如何に洗髪？次第に痒くなるし、第一不潔にしとくと毛がどんどん抜けるのではないか。道を歩く乗馬姿を見て Moss さんちでの乗馬を思い出す。手綱捌きの分らない頓馬な馬をあてがわれたっけ、その方が手綱捌きを知らない俊雄には安全だからと。
- 1900 Hamid に会い簡単に打ち合わせ。明日再度。事務所に寄って帰る。
- 2000 たまらずシャワー、耳から下にビニール袋を覆面見たいにセロテープでシールして、苦勞する。が気持ち良い。Merkur の牛こまで焼き肉。時にげっぷで患部がドキッ!今夜は腰痛忘れて眠れそう。

九月二十一日(月)

- 0430 起床。腰痛かなり軽減。中ソフトボール。久し振りに体操、但しストレッチのみ。
- 0830 Burian 先生に電話。
- 0900 Meical Center にナース訪問、報告。
- 1300 総会昼食会(日本主催)、夜 STA 長官パーティ、説明して見せない限り切開跡も腰痛にも気付かぬらしい。安心。町次長が椎間板ヘルニアらしい。(金)(日)と二度オペとか聞いた。痛そう!
- 2300 みつ子から母の状況について便り。小さく弱くなってらしい。みつ子の苦勞と近付きつつありそんな母の最期を感じず。暮れまでもつか。

九月二十二日(火)

- 0500 起床。腰痛ほぼ完治か。人参二本。体操開始。上半身左胸部が青黒い。内出血の拡散?

- 1800 帰宅。上半身左胸部が赤黒い。朝より明瞭。ナースに会えず。明日ナース、必要なら AKH。

九月二十三日(水)

- ナース訪問(0900)。内出血が下降したヘマトマ(?)。左頬下部も黄色。明朝再見で判断。写真。患部周りのしびれ感続く。腰の痛みはひいたが疲労感残る。経緯ドゞ語報告書校正を Hanelore に頼む。

九月二十四日(木)

- ナース訪問(0900)。ヘマトマ(?)は予想通り、大事ないが継続監視する、明朝も来い。患部周りのしびれ感続く。時に耳に軽い痛み。げっぷ時等。口腔内左に軽い痛み、歯痛に似るが、物を噛む時に多い。関係有るのかどうか、来週面会時確認か。腰痛はひいたが疲労感残る。

九月二十五日(金)

- 0900 ナース訪問。ヘマトマは予想通り、赤みが出ると新血で危険、今はそれがない、大丈夫。週末に赤みが出たら病院へ行け。なければ火曜の医師面会まで大丈夫。月曜朝も来い。
- 1030 前日までの経過記録にEから「病院へ行け」と。電話すると Burian 先生「来れるか」。
- 1200 「ヘマトマは心配ない、一週間で消滅、出血の跡。患部の経過も良好。軽い痛みも痺れ感も普通。三週間で洗髪シャワー可、患部をきれいにする、今日見たので次回は 10/13 に延期。」
- E に e-mail 報告。かなり心配している。側に居ないから現物が見えず心配なのだ。鏡で見ると傷痕の妙アタもなくなり、これじゃよっぽど注意しないと気付かないと納得。

九月二十六、七日(土、日)

- 0300 目が覚めたのでEに電話報告。
- 0700 リハビリ兼ねて久し振りにハイキングクラブへ (Paul Hesp)。車中で患部に無色の液体、ドゞ。外部からか、内部からか。続くようなら駅で仲間と別れて医者か、と考える。幸い止まる。患部の汗か、当面発汗し易いとは書いてあった。その後も時に濡れを感ずる。ウォーキングも患部には結構な運動なのか。ヘマトマは夜も異常無し、和らいでいる。体力復帰は順調、二日で約 30 余 km。

九月二十八日(月)

- 0900 ナース訪問。ヘマトマは予想通り、赤みは無い、Fading している、大丈夫。二十五日(金)に Burian 先生に会ったとは言えない。
- 経緯ドゞ語報告書校正を先生に頼む。序でに GG 登頂記と展示会案内も。
- E から心配している e-mail。ヘマトマは動かない筈と。じゃこれは違うのかな。患部が時に痒い。

九月二十九日(火)

- 1300 ランチミーティング。時に患部に汗らしき感じ。食事時に発汗は自然か。他に異常なし。ヘマトマは縮小傾向。

九月三十日(水) そろそろ、日記も終わりに近い。

- 患部に張力を課さない限り体操もかなり自然。が時に違和感残る。自然の治癒過程か。

十月四日(日)頃

- シャワー、洗髪。おそろおそろ。気持ち良い、快感。

十月六日(火)

- トーストマスターズ地区予選で「入院と胃カメラ」優勝。

十月十日(日)

- リハビリ兼ねてハイソングクラブ Schneebg へ(Peter Jirak), Fadensteig。体力回復に自信。

十月十三日(火)

- 外来訪問。快気宣告。運動、洗髪、床屋全て可。問題あれば来い。問題なければ二年後に再診。帰国直前に再訪とする。ハトマももはや見えない。保険書類の記入署名依頼。10/29 回収。術後経過の写真ネガEに郵送。樋口に手術報告と正月の再会を打診のカード投函。10/15 快気祝いを OKB がしてくれる。最近患部からの発汗も減少。無感覚状況は相変わらずだが、痛みもない。

十月十七日(土)

- 久しぶりに床屋。予め手術後であること、手術部を通告。がバリカン使われて心配。

十月十八日(日)

- 退院一ヶ月。快復順調。体操で首を右に傾げると左耳付近に何かを感じずる程度。ハトマも消えた。そろそろジョギング再開か。今日は家から KIKA でもう結構の感。少しずつ距離を伸ばそう。

十月二十九日(木)

- 保険用書類受け取り。幾つかの新情報。
- 第一回オペは麻酔開始 0800、オペ開始 0835、終了 1115、麻酔中止 1130、覚醒 1135。診断 Benigne Neoplasien der Hauptspeicheldruese
- 第二回オペは麻酔開始 1855、オペ開始 1935、終了 2045、麻酔中止 2100、覚醒 2105。診断 Postoperative Blutung oder Haematom
- 再オペ経緯。「開く。出血部位同定、止血。縫合開始後に再出血。再開、出血部位同定出来ず、微量出血の集合か出血の拡散によるものと推定、再縫合。今度は出血なし。」
- 費用概略(シリング)。診断 850、入院 133670、手術 56371、検査 10397、麻酔 10454、計 211742。
- 従来の出費は約 15000(80%換金済み)。残りは直接保険屋に回ったのか、請求書来ていない。

十一月七日(土)

- トーストマスターズ全欧大会。落選。

十一月二十日(金)

- 入院費用の請求書着。ATS133670-(約 150 万円)。一旦払う。80%は還付される筈だが、自己払いと思うと多額。
- 患部の無感覚状態緩和、若干残るが違和感緩和。

十一月二十四日(火)

- トーストマスターズ「書ABC」。